

所属機関長各位

2026年度 研究助成のご案内について

拝啓 時下ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。

平素は、本財団の活動に格別なるご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、ご承知の如く本財団は、研究助成事業と顕彰事業を2本の柱とする事業を展開しております。

このたび2026年度の研究助成事業として「臨床検査、衛生検査及びこれらに係る基礎医学に関する調査並びに研究」の領域でより優れた学術研究・業績テーマに対して研究助成を行います。また、2022年度より本財団創立30周年を記念し、新たな対象領域として「感染危機管理」を設けており、これを継続しております。

早速ながら、本年度の研究助成金申請書をホームページに記載いたしましたので、ご多忙中のところ恐縮ではございますが、貴機関の関係者にご伝達の上、**2026年5月31日 日曜日(当日消印)**までに、申請者ご自身から本財団宛に申請くださいますようお願いの程、ご案内かたがたお願い申し上げます。

敬具

2026年3月吉日

公益財団法人 黒住医学研究振興財団

代表理事・理事長 渡邊 治雄



※財団事務所は2025年9月に下記住所に移転しました。

公益財団法人 黒住医学研究振興財団の事務局は

東京都千代田区神田駿河台4丁目6番

御茶ノ水ソラシティ20階

TEL 03-5846-3504 FAX 03-5846-3514

URL <http://www.kmf.or.jp> E-mail : info@kmf.or.jp

公益財団法人 黒住医学研究振興財団
2026年度 第34回 研究助成金募集要項

1. 研究助成事業の対象

研究助成は、臨床検査、衛生検査及びこれらに係る基礎医学に関する調査並びに研究で、より優れた学術研究・業績を研究助成事業の対象とし、若手の育成（原則として50歳以下）を主眼としています（詳細については本財団ホームページ「よくあるご質問」をご参照ください。）。

2. 応募資格

医学関連の大学及びその他の教育機関、研究所並びに医療機関等において、本研究助成事業の対象領域において調査、研究に積極的に取り組もうとする個人とします。

ただし、大学教授及び国公立研究機関の部長並びにこれらに準ずる職位の方は除きます。

3. 対象領域

- | | | |
|---------|-------------|-------------|
| ① 臨床化学 | ② 分子生物学（医学） | ③ 臨床微生物学 |
| ④ 臨床免疫学 | ⑤ 検査血液学 | ⑥ 人体病理学 |
| ⑦ 疫学 注1 | ⑧ 一般・生理学 | ⑨ 感染危機管理 注2 |

の9つの領域。注1：臨床検査・衛生検査についての集団(mass)を対象に扱う研究

注2：次なるパンデミック対応、バイオリスク管理、施設内感染防止、感染制御、マスギャザリング対策等

※申請した対象領域と異なる分野での審査が行われる可能性があります。

4. 募集期間

2026年3月15日（日）から2026年5月31日（日）までとします。

なお、郵送の場合は当日の消印まで有効です。

5. 研究助成件数及び研究助成額

研究助成額は、対象領域①～⑧は1件100万円を限度とし、助成件数は15件以上とします。

また、対象領域⑨は1件150万円を限度とし、助成件数は2件ないし3件とします。

6. 応募方法

所定の申請書に記入し、本財団 研究助成金選考委員会 宛に送付してください。

なお、提出部数は「原本と複写2部」の合計3部を送付してください。

（署名捺印に関して、自筆は私印（認印）、公印可。PC入力、ハンコは公印でお願いします。）

☆申請書は必ず公益財団法人黒住医学研究振興財団のホームページからファイルをダウンロードしてご使用ください（年度毎に改訂されますのでご注意ください。）。

URL <http://www.kmf.or.jp/>

7. 審査方法及び通知

本財団の委嘱する審査委員が9つの対象領域ごとに審査したあと、選考委員会で選考審査を行い、理事会で研究助成の対象を決定します。その結果は、9月末日に本財団ホームページに掲載し、受贈者にその旨を通知いたします。

8. 研究助成金の贈呈

2026年10月23日(金)の小島三郎記念文化賞贈呈式にあわせて、研究助成金を贈呈する予定です。

9. 受贈者の研究助成金受領後の義務

以下の事項を研究助成金受領後(贈呈式後)、1年以内に本財団事務局へ提出していただきます。

- ① 研究期間は、原則として研究助成金受領後1年間とし、その研究結果について本財団指定様式にて2,000字以内で報告書を作成すること。1年間で終了しない場合は、中間報告として研究・会計報告書を作成すること。

(報告書は年報・本財団ホームページ・研究業績集に掲載させていただきます。)

- ② 会計報告については本財団指定様式にて作成すること。

なお、受贈者が研究結果を発表する口頭発表論文発表等には本財団の研究助成を受けた旨の附記(英字表記の場合は、「KUROZUMI MEDICAL FOUNDATION」)を必ずしてください。

※「研究報告書」の本財団事務局への提出が確認できない場合には、当該研究課題について贈呈した研究助成金の贈呈決定を取り消し、受領した助成金の返還を求めるとともに、所属する研究機関の名称等の情報を公表する場合があります。

10. 申請書類の提出先(提出先が変更となりました。)

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台4丁目6番 御茶ノ水ソラシティ 20階

公益財団法人 黒住医学研究振興財団 研究助成金選考委員会 宛

(問い合わせ先)

公益財団法人 黒住医学研究振興財団 事務局

TEL 03-5846-3504

FAX 03-5846-3514

E-mail info@kmf.or.jp

附記

- 所属機関長は、大学長、研究所長、病院長及びそれに相当する職域の長であることが必要となります。
- 応募の書類は、一切返却いたしません。
- 贈呈される助成金には、大学等の間接経費(事務処理経費)は含みません。

第 33 回研究助成金贈呈者の研究課題一覧 (2025 年度) 参考

氏 名	所 属	研 究 課 題	選考対象
出居真由美	順天堂大学医学部 臨床検査医学講座 准教授 医学博士	JSCC 法で AST・ALT が正常～低値例における IFCC 法測定の有用性	臨床 化学
白上 洋平	岐阜大学医学部附属病院 検査部 副部長 第一内科/講師 医学博士	肝がん新規バイオマーカーMYCN の機能解析と臨床検査法確立	臨床 免疫学
畑山 祐輝	鳥取大学医学部附属病院 検査部 主任臨床検査技師 医学博士	急性骨髄性白血病の新規バイオマーカーとしての Vault RNA の可能性	分子 生物学
西岡 光昭	山口大学医学部附属病院 検査部 臨床検査技師長 医学博士	大腸癌関連 long non-coding RNA プロモーター領域のメチル化を標的とした便スクリーニング検査の実用化に向けた研究	分子 生物学
柿田 徹也	沖縄県衛生環境研究所 感染症研究センター主任研究員 獣医学博士	病原性レプトスピラ血清群特異的リアルタイム PCR の開発	臨床微生 生物学
武井 理美	順天堂大学医学部 臨床検査医学講座 助教 医学博士	質量分析法 MALDI-TOF MS を用いた希少および培養困難菌の同定方法の確立	臨床微生 生物学
萩原 秀	東京大学医学部附属病院 感染制御部 微生物検査室 臨床検査技師	肺炎球菌以外の Mitis group streptococci の簡易的同定系の確立とその保有病原因子の網羅的解析	臨床微生 生物学
佐賀由美子	富山県衛生研究所 ウイルス部 主任研究員	新規開発高感度・同時検出 PCR 法を用いたダニ媒介感染症の後方視的研究	臨床微生 生物学
片桐 孝和	金沢大学大学院医薬保学総合研究科 病態検査学講座 准教授 保健学博士	自己免疫性骨髄不全におけるプレジジョン医療開発に向けた先制的臨床検査の実装～新規フローサイトメトリー解析法の開発～	臨床 免疫学
田中ゆきえ	東京科学大学大学院医歯学総合研究科 微生物・感染免疫解析学分野 准教授 医学博士	CAR-T 療法の有用性および副作用リスク予測のための腸管免疫・細菌叢の解明と免疫プロファイリング基盤の構築	臨床 免疫学
徳永 尚樹	川島病院 診療技術部 検体検査技術科 科長 臨床検査技師	血液透析患者のバスキュラーアクセスにおける血流速度と後天性フォンヴィレブランド症候群の関連性の解明	検査 血液学
酒井 康弘	浜松医科大学医学部医学科 腫瘍病理学講座 准教授 医学博士	DSS1・PCID2 を用いた新規 PARP 阻害剤コンパニオン診断法の基礎的検討	人体 病理学
朝比奈 彩	静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 社会健康医学専攻 博士後期課程	日本人地域住民における、末梢血中 Y 染色体モザイク喪失の疫学調査、ならびに総死亡や循環器疾患発症との関連解明	疫 学
林 泰志	東京都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科 医員	小児造血幹細胞移植後患者における水痘・帯状疱疹ウイルス感染症の疫学	疫 学
前田 圭介	藤田医科大学 医療科学部 臨床教育連携ユニット 生体機能解析学分野 講師 医療科学博士	発達性てんかん性脳症の精神運動発達遅滞を捉える脳波バイオマーカーの開発	一般・ 生理学
渡辺 直樹	亀田総合病院 臨床検査部 副主任 保健学博士	高病性肺炎桿菌による菌血症の重症化リスクと分子疫学の解明	感染危機 管理
森田 未香	富山大学附属病院 検査・輸血細胞治療部 副臨床検査技師長 保健衛生学博士	院内細菌タイピングへのフーリエ交換赤外分光法導入に向けた実現可能性の検証	感染危機 管理
加藤 博史	国立感染症研究所 応用疫学研究センター 主任研究員 医学博士	次なるパンデミックに向けた、エムボックスの臨床免疫学的解析と核酸増幅臨床現場即時検査の開発	感染危機 管理

総申請者数 215 名

研究助成金総額 1,800 万円(18 名)